

地方独立行政法人化の目的

- ▶高度医療人材の確保
- ▶県民へのより質の高い医療の提供

令和3年4月1日

地方独立 行政法人化

中期計画に掲げる3つの柱



高度専門・政策医療の提供



人材の確保と組織づくり



財務内容の改善

循環器・呼吸器病センター

開設年月 昭和29年1月
(小原療養所(結核療養所)開設)
病床数 343床
(一般292 結核30 感染症21)
診療科数 19科
職員数 624人

指定等

- ・第二種感染症指定医療機関
- ・埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク基幹病院
- ・結核指定医療機関

がんセンター

開設年月 昭和50年11月
病床数 503床
診療科数 25科
職員数 794人

指定等

- ・都道府県がん診療連携拠点病院
- ・がんゲノム医療拠点病院

小児医療センター

開設年月 昭和58年4月
病床数 316床
診療科数 30科
職員数 866人

指定等

- ・小児がん拠点病院
- ・小児救命救急センター
- ・総合周産期母子医療センター
- ・災害拠点病院
- ・がんゲノム医療連携病院

精神医療センター

開設年月 平成2年4月
病床数 183床
診療科数 6科
職員数 224人

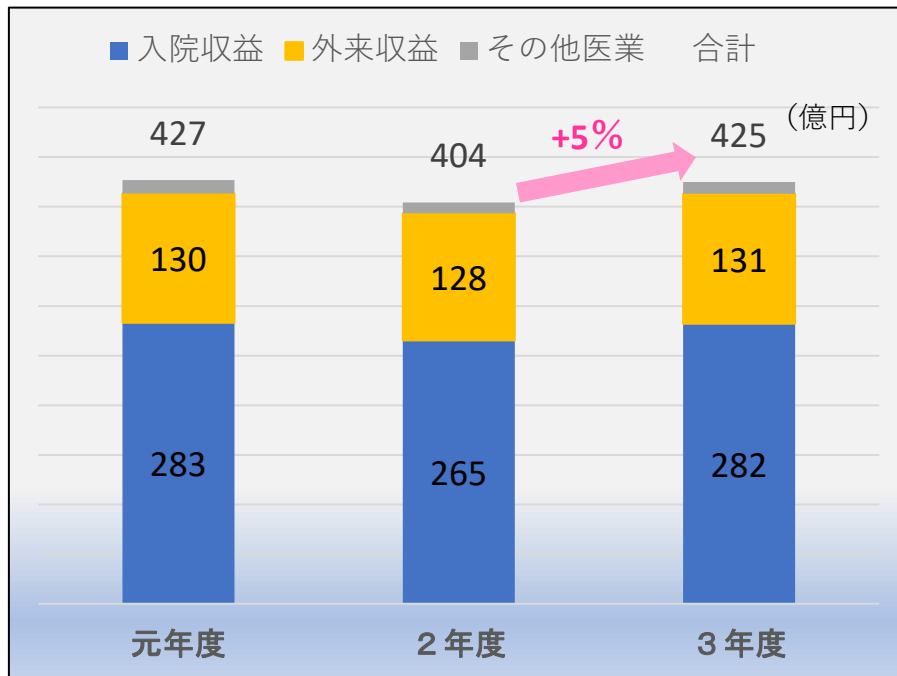
指定等

- ・埼玉県精神科救急医療体制整備事業常時対応施設
- ・医療観察法指定入院・指定通院医療機関
- ・埼玉県依存症専門医療機関
- ・埼玉県依存症治療拠点機関

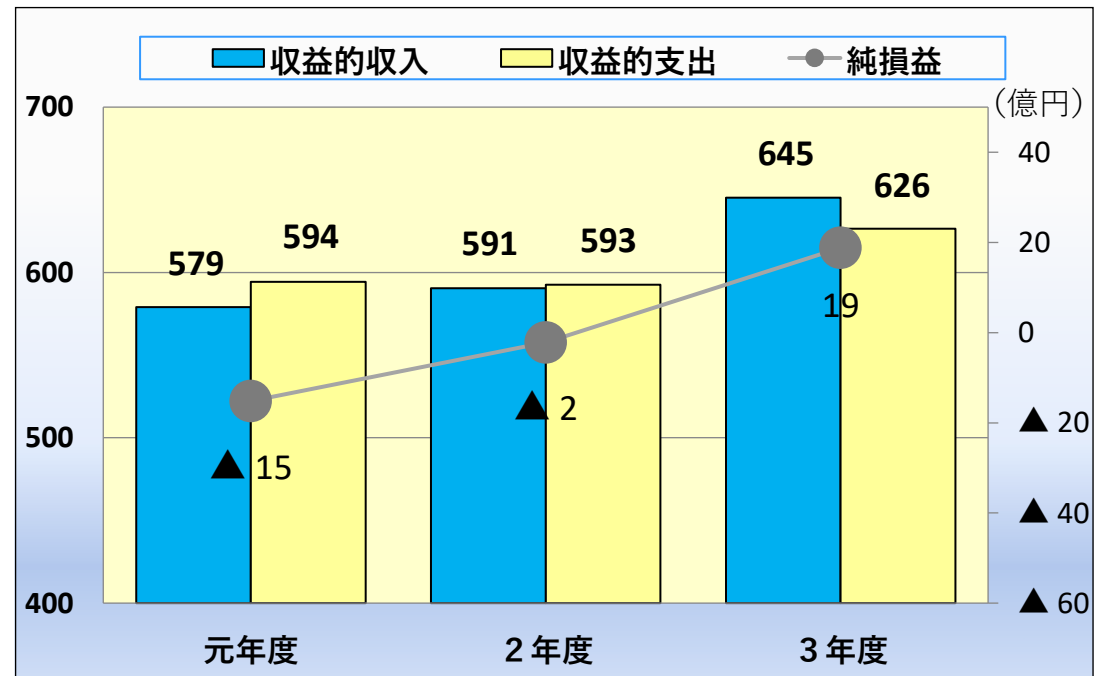
令和3年度決算

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、医業収益は前年度比2.1億円増と感染拡大前の水準を確保
- コロナ患者の受入れ等に伴う補助金収入が約5.6億円
- この結果、純損益は前年度比2.1億円改善し、地方独立行政法人化初年度で約1.9億円の黒字決算

医業収益の推移



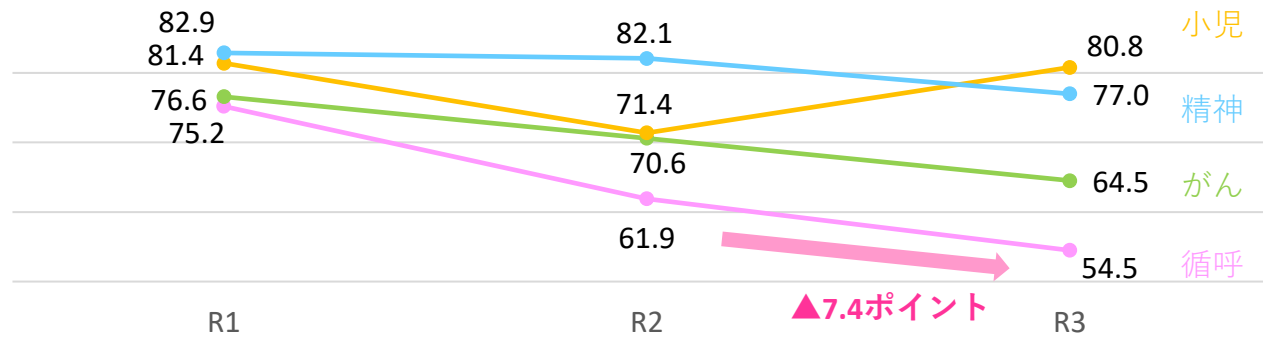
収益・費用・純損益の推移



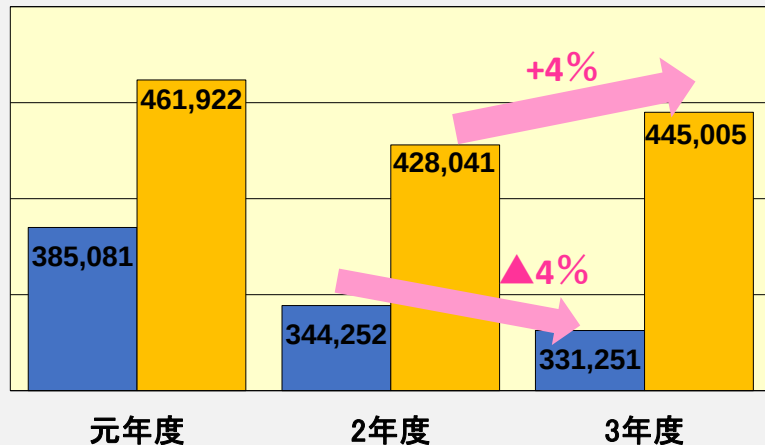
令和3年度事業実績

- 病床利用率は、コロナ患者の受入れによる病床確保等の影響により特に循呼セなどで厳しい状況
- 入院患者数については減少、外来患者数については回復傾向
- 入院・外来収益は、一人一日当たり入院単価の向上等によりコロナ拡大前（令和元年度）の水準を確保

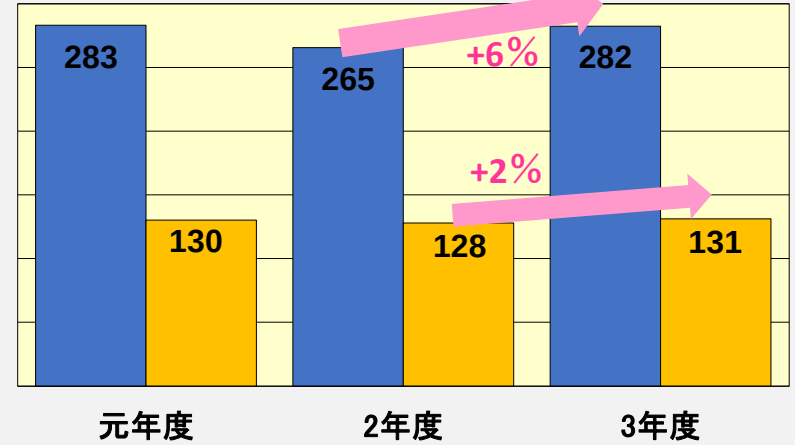
病床利用率の推移



■入院患者数 ■外来患者数 (人)



■入院収益 ■外来収益 (億円)



令和3年度業務実績評価

埼玉県知事による評価

大項目評価



大項目1

県民に提供するサービス
その他業務の質の向上

A

➤ 高度専門医療・患者支援・医療安全など154件



大項目2

業務運営の改善・効率化

B

➤ 組織づくり・人材確保・経営基盤強化など68件



大項目3

財務内容の改善

A

➤ 予算・収支計画・資金計画など5件



大項目4

県の保健医療行政に協力

A

➤ 新型コロナウイルス感染症・災害時支援など6件



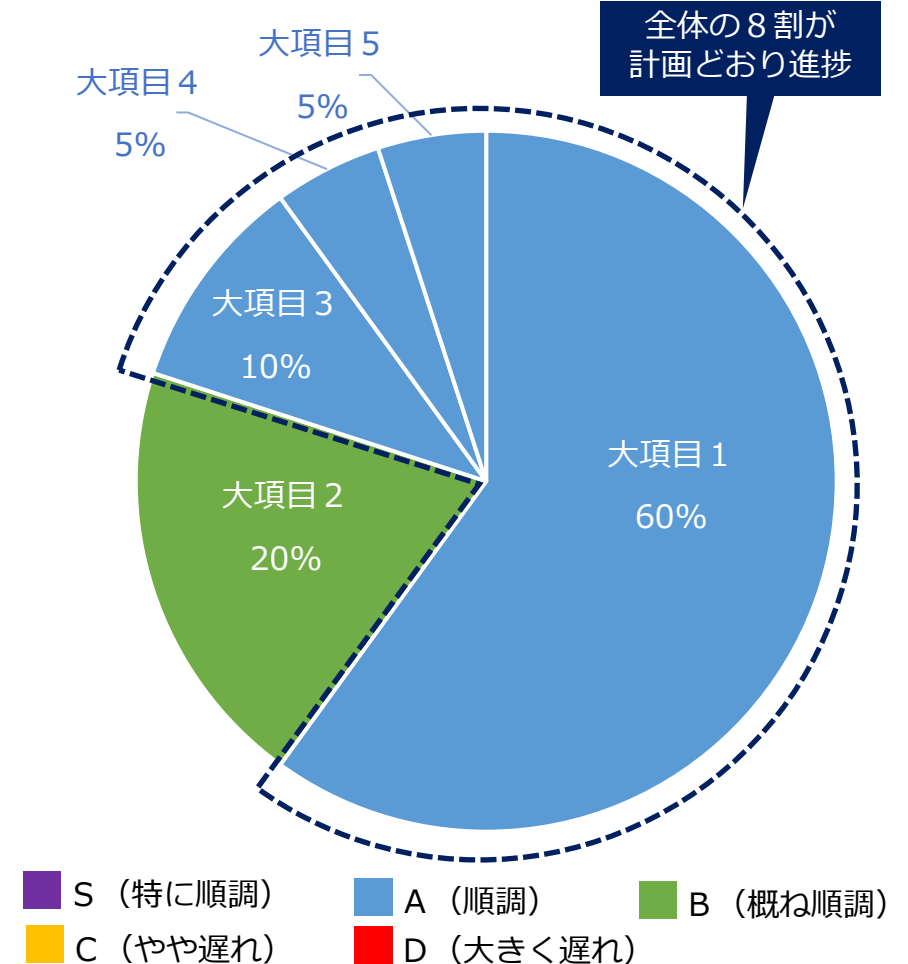
大項目5

その他重要事項

A

➤ 計画的な施設整備・設備更新など5件

大項目のウエイト



全体評価

全体として中期目標の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。

地方独立行政法人化後の主な取り組み

医療人材の確保

- 医師の年俸制導入やレジデントの常勤化等により常勤医師を増員し医療体制を充実
- 国の補助金を活用した看護師の処遇改善を実施
- 薬剤師の処遇改善、増員を実施

組織改革と病院間連携の推進

- 月1回開催する経営戦略会議を中心にPDCAサイクルを回す体制を構築
- 副病院長（看護師）の新設
- 入退院支援センターによる患者への一元的対応
- 小児セから循呼セへの医師の応援派遣

新型コロナ対応

- 病床確保計画のフェーズに応じ感染者急増時には最大167床（うち重症30床）を確保
- 令和3年度は801人（うち重症者142人）の患者を受入れ

政策医療・地域医療への貢献

- （循呼）埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク
基幹病院としてハイブリッド手術室を活用した高度な医療を提供
- （がん）都道府県がん診療連携拠点病院として
地域の医療機関への情報提供や研修実施
- （小児）新たに2地区の小児救急医療輪番体制の
空白地域に小児科当直医師の派遣開始

小児救急医療輪番体制空白地域への当直医師派遣



- （精神）地域医療機関では対応困難な依存症、
児童思春期精神疾患患者などの受入れ

「令和4年度上半期の病院運営状況」

○ 入院

区 分		R4年度9月末 時点累計 (A)	R3年度9月末 時点累計 (B)	R3年度比 A－B		R1年度9月末 時点累計 (C)	R1年度比 A－C	
全体	延 患 者 数 (人)	169,527	165,947	3,580	2.2%	192,640	△23,113	△12.0%
	新規患者数 (人)	11,598	11,373	225	2.0%	12,684	△1,086	△8.6%
	病床利用率 (%)	68.9	67.4	1.5	2.2%	78.3	△ 9.4	△12.0%
循・呼	延 患 者 数 (人)	34,531	32,198	2,333	7.2%	46,877	△12,346	△26.3%
	新規患者数 (人)	2,627	2,353	274	11.6%	3,210	△583	△18.2%
	病床利用率 (%)	55.0	51.3	3.7	7.2%	74.7	△ 19.7	△26.4%
がん	延 患 者 数 (人)	60,470	59,432	1,038	1.7%	71,110	△10,640	△15.0%
	新規患者数 (人)	4,627	4,701	△74	△1.6%	5,249	△622	△11.8%
	病床利用率 (%)	65.7	64.6	1.1	1.7%	77.3	△ 11.6	△15.0%
小児	延 患 者 数 (人)	46,892	47,359	△467	△1.0%	46,734	158	0.3%
	新規患者数 (人)	3,995	4,010	△15	△0.4%	3,911	84	2.1%
	病床利用率 (%)	81.1	81.9	△ 0.8	△1.0%	80.8	0.3	0.4%
精神	延 患 者 数 (人)	27,634	26,958	676	2.5%	27,919	△285	△1.0%
	新規患者数 (人)	349	309	40	12.9%	314	35	11.1%
	病床利用率 (%)	82.5	80.5	2.0	2.5%	83.4	△ 0.9	△1.1%

○ 外来

区 分		R4年度9月末 時点累計 (A)	R3年度9月末 時点累計 (B)	R3年度比 A－B		R1年度9月末 時点累計 (C)	R1年度比 A－C	
全体	延 患 者 数 (人)	227,593	222,190	5,403	2.4%	231,060	△3,467	△1.5%
	新規患者数 (人)	13,875	12,368	1,507	12.2%	14,072	△197	△1.4%
	1日患者数 (人日)	1,850.3	1,821.2	29.1	1.6%	1,878.5	△ 28.2	△1.5%
循・呼	延 患 者 数 (人)	34,507	33,377	1,130	3.4%	38,613	△4,106	△10.6%
	新規患者数 (人)	2,299	1,705	594	34.8%	2,671	△372	△13.9%
	1日患者数 (人日)	280.5	273.6	6.9	2.5%	313.9	△ 33.4	△10.6%
がん	延 患 者 数 (人)	106,454	103,048	3,406	3.3%	106,655	△201	△0.2%
	新規患者数 (人)	3,992	3,508	484	13.8%	4,304	△312	△7.2%
	1日患者数 (人日)	865.5	844.7	20.8	2.5%	860.1	5.4	0.6%
小児	延 患 者 数 (人)	71,575	71,236	339	0.5%	70,966	609	0.9%
	新規患者数 (人)	7,013	6,703	310	4.6%	6,647	366	5.5%
	1日患者数 (人日)	572.6	569.9	2.7	0.5%	577.0	△ 4.4	△0.8%
精神	延 患 者 数 (人)	15,057	14,529	528	3.6%	14,826	231	1.6%
	新規患者数 (人)	571	452	119	26.3%	450	121	26.9%
	1日患者数 (人日)	122.4	119.1	3.3	2.8%	120.5	1.9	1.6%

○ 救急患者数・手術件数

区 分		R4年度9月末 時点累計 (A)	R3年度9月末 時点累計 (B)	R3年度比 A－B		R1年度9月末 時点累計 (C)	R1年度比 A－C	
全体	救急患者数 (人)	4,754	4,293	461	10.7%	5,202	△448	△8.6%
	手 術 件 数 (件)	4,353	4,471	△ 118	△2.6%	4,353	0	0.0%
循・呼	救急患者数 (人)	1,708	1,567	141	9.0%	2,227	△519	△23.3%
	手 術 件 数 (件)	712	686	26	3.8%	676	36	5.3%
がん	救急患者数 (人)	252	221	31	14.0%	222	30	13.5%
	手 術 件 数 (件)	1,677	1,693	△ 16	△0.9%	1,896	△ 219	△11.6%
小児	救急患者数 (人)	2,645	2,330	315	13.5%	2,573	72	2.8%
	手 術 件 数 (件)	1,957	2,083	△ 126	△6.0%	1,774	183	10.3%
精神	救急患者数 (人)	149	175	△26	△14.9%	180	△31	△17.2%
	手 術 件 数 (件)	7	9	△ 2	△22.2%	7	0	0.0%

新型コロナにより落ち込んだ患者数の回復<循環器・呼吸器病センター>

1 R3年度の状況

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少

R1年度⇒R3年度：入院 26,217人減 外来 9,982人減

- ・新型コロナ確保病床数 最大 101床(休止70床)

- ・コロナ患者対応のため、地域の医療機関からの新規患者や救急要請の受け入れを制限し対応

2 課題

- ・地域の医療機関や救急隊との連携等の強化を図り、紹介患者等の増加を図る。
- ・広報等を通じセンターのイメージ向上を図り、集患に繋げる。

3 取組み

- ・地域の医療機関との連携強化

(地域医療機関への訪問 R4：計215機関(10月末)、メーリングリスト登録171機関に配信、診療科医師からの電話連絡、地域の研修会での医師の講演など)

- ・救急隊との関係強化

(消防本部への訪問(4月)、県大動脈緊急症治療ネットワークへの参加(6月)、救急隊との症例検討会の検討など)

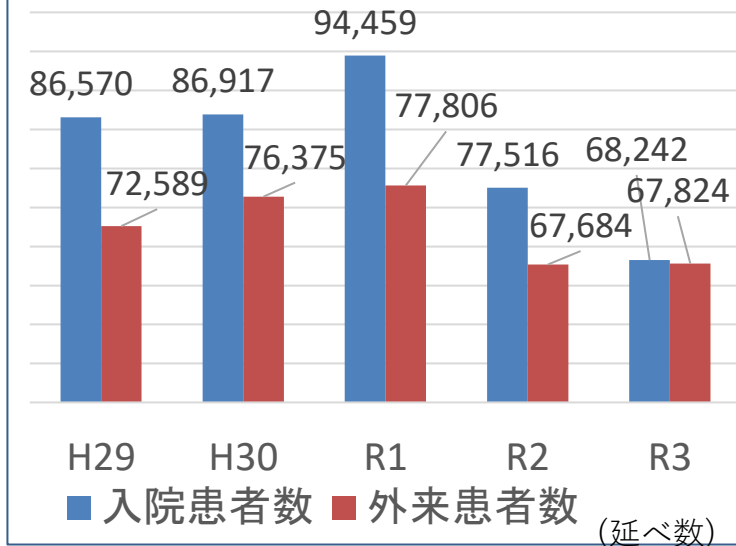
- ・YouTubeや広報誌による広報活動の充実

(YouTubeチャンネルの充実(14本掲載)と高齢者関係団体等への周知、広報誌のデザインの刷新と配布先の工夫、ホームページの適切な更新など)

※R4年度は新規患者等の明確な受入制限はないが、感染拡大時には一般医療との調整が必要となる場合がある。

※結核患者の受入ニーズに対応し、10月から結核病棟を再開

入院・外来患者数の推移



逆紹介割合の向上<がんセンター>

現状

- 令和5年度から診療報酬上「紹介受診重点医療機関」の減算対象となる基準（逆紹介割合**30%**未満）を下回る。

【紹介受診重点医療機関※】 ※医療資源を重点的に活用する外来（がん手術入院前後、化学療法、放射線治療など）を地域で基幹的に担う医療機関
令和4年度中に県が公表予定。当センターは紹介受診が原則のため、対象となる見込み。

【逆紹介割合】

逆紹介割合＝逆紹介患者数（診療情報提供料Ⅰ算定数※）÷（初診＋再診患者数）×1,000

（令和3年度実績：**約20%**） ※診療の必要性から、医療機関等に診療情報提供書（紹介状）を作成し患者紹介を行った場合に算定

課題

- 逆紹介割合が**30%**を6か月連続で上回らないと、診療報酬が大幅に減算される。

初診料：2,880円→2,140円

再診料：740円→550円

年間約▲5,000万円

- 現場において、逆紹介割合の正しい理解が得られていない。
- 逆紹介割合を高める方策が確立していない。

今後（今年度）の取組

- 部局長会議において、逆紹介割合を高める取組や毎月の実績を情報発信
- 病院長から各科長に逆紹介割合を高める取組の検討を依頼
- 逆紹介Q&Aの作成
- 紹介状を書こうキャンペーンの実施
 - ・ キャンペーン第一弾：CKD（慢性腎臓病）を紹介しよう！
 - ・ キャンペーン第二弾：歯科医院へ紹介しよう！
 - ・ キャンペーン第三弾：1日3件は逆紹介をしよう！

【令和4年度実績】

4月：**約20%** → 5月：**約25%** → 6～9月平均：**約29%**



埼玉県立がんセンター

病床利用率（ベッドの効率運用）＜小児医療センター＞

現状

4月、5月の病床利用率は、一部病棟の入院制限や手術件数の減少により低調であった。
 6月以降は入退院支援センターを中心に、円滑なベッドコントロールを行い、順調である。
 7月、8月は新型コロナ第7波による感染症拡大の中においても、出勤停止になった職員のやりくりや病棟陰圧装置の設置などを実施し、大きな診療制限なく運用ができた。
 7月の病床利用率は86.7%（歴代最も高い値）、8月は83.8%（過去5年間の8月の中で最も高い値）であった。

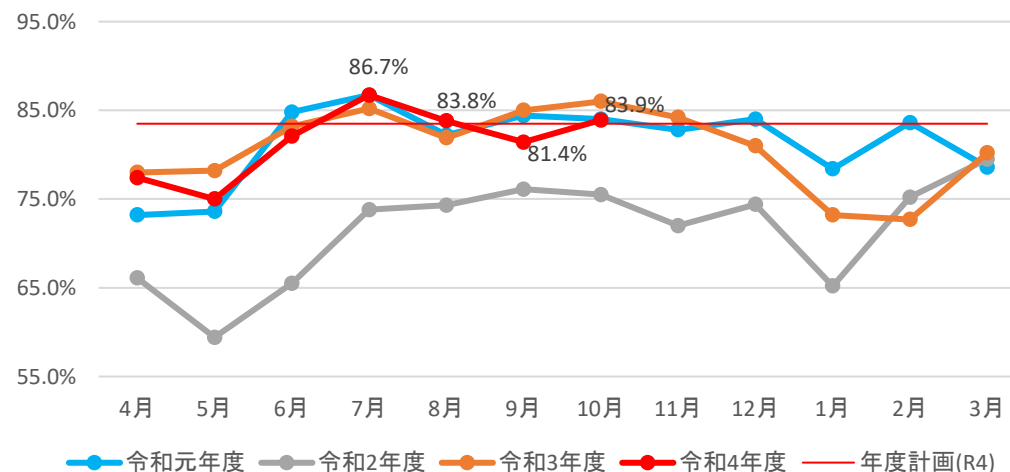
課題

第3四半期は退院患者が多くなる年末に病床利用率が低下する。第3四半期を通してベッドを効率よく運用し、多くの患者を受け入れ、病床利用率を高く維持する。

今後（今年度）の取り組み

- ・入退院支援センターを中心に院内調整を行い、空床ベッドの有効利用や緊急入院調整の強化により、効率的なベッド運用に努める。
- ・土曜日手術や日帰り入院検査を実施する。
- ・コロナ感染症の流行状況を見ながら、病院訪問や対面での講演会開催等を検討し前方連携を進めていく。
- ・YouTubeチャンネルへの動画掲載やSNSによる情報の発信を進めていく。

病床利用率の推移



令和4年度

目標	83.5%
10月末	81.5%
令和3年度	80.7%
令和2年度	71.4%
令和元年度	81.4%

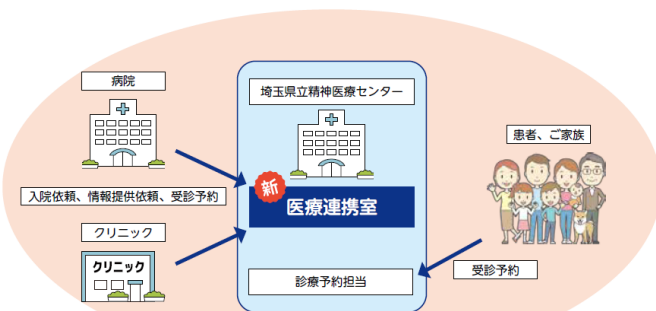
医療連携室の設置＜精神医療センター＞

1 設置の背景

- 昨年度、院内あり方検討会議で今後の医療連携について議論
- あるべき姿は、「救急患者への対応だけでなく、特に病床を持たないクリニックからの診療依頼への対応」を強化すること
- 一方で、外部から頼みにくく、問い合わせしづらいとの意見

7/1～「医療連携室」を設置

窓口を一本化し、可能な限りの入院のニーズに迅速に対応



～医療連携室のイメージ～

2 概要

- 人員 7名（多職種チーム）
 - ・ 室長：副病院長兼入院統括部長（医師）
 - ・ 副室長：第2精神科科長（医師）
 - ・ メンバー：療養援助部主幹、主査及び主任（精神保健福祉士）並びに外来担当看護主査（看護師）及び事務主事
- 役割
 - ・ 外部の病院やクリニックから分かりやすい形にすること
 - ・ 依頼への処理の質・スピードの均てん化を行うこと
 - ・ 今後の対策を考えられるデータ抽出
- 業務内容
 - ・ 入院依頼の調整について
 - ・ 外来受診相談について
 - ・ 診療情報の提供について

3 活動実績

- 活動を図る指標

「医療連携室を経由した入院数（人）」

【目標】 11人／月（7/1～）

- 活動実績（9月末まで）

■ 医療連携室への依頼件数（件）

	7月	8月	9月
入院依頼	24	23	20
受診依頼	9	6	8
診療情報提供依頼	9	5	7
措置診察依頼	7	8	4
その他	0	5	8
計	49	47	47

■ 医療連携室を経由した入院数（人）

7月	8月	9月
11	11	6